

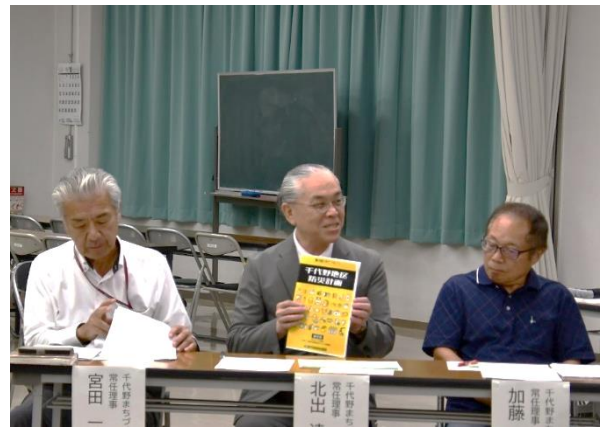
令和7年度 第18回「白山市ミライ会議」会議概要

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。
※制度などの説明は、会議開催時点のものです。

日 時:令和7年10月2日(木) 19:00～

場 所:千代野コミュニティセンター

参加者:11名



- ◆ 令和元年度に策定した「千代野将来ビジョン」に沿って他地区に先駆けて地域づくりを行ってきました
- ◆ 防災と環境美化のプロジェクトチームを作るとともに、地区のブランド力を高める活動を始めています

(参加者)

地域コミュニティ組織の目的・理念は、地域課題の解決を図り、住民が自主的・主体的に活力あるまちづくりを進め、行政が後押しするというスタンスだと理解しています。

今は立ち上げ直後でもあるため、基本的には公民館時代から行ってきた行事や事業を引き継いで活動しています。普段の行事もまちづくりの土台になる大事な活動なので、丁寧に継続していく必要があると考えています。

千代野地区の新しい取り組みとしては、防災と環境美化のプロジェクトチームを作って進めています。また、千代野のブランド力を高める活動もいくつか始めており、内容を充実させながら挑戦していくことも大切なテーマだと思っています。

先日、28地区の地域コミュニティ組織の会長(代表)が集まる連絡会があり、各地区の活動概要を拝見しました。多くの地区で、祭り、社会体育大会、環境美化など、従来の公民館事業が中心でした。地区によ

っては、まちづくり活動がなかなか進まず、理解が十分でないまま迷いながら進めている現状も印象に残りました。

地域コミュニティ組織を作った現段階で、最終的なゴールや目標があると活動方針が明確になり、考え方も整理しやすいと思います。今日の中で、活動の軸になるものをつかめればと考えています。

(参加者)

千代野地区を将来的にどうしていくかという計画は、令和元年度に「千代野将来ビジョン」として策定しています。そこでは、住民の高齢化と施設の老朽化が大きな課題として挙げられています。今回の会議テーマにある「住み続けたいまちへ」という言葉は、ビジョンでも同様に、「住みやすいまち 住み続けたいまち」を基本にしています。

千代野地区が令和2年10月に他地区に先駆けてコミュニティ組織を形成できたのは、このビジョンがあったからです。ビジョンの推進体制として各種団体連絡協議会を作り、運用しているのが地域コミュニティ組織「千代野まちづくりネット」です。現在は見直しを進めており、地区内で議論した結果を目標として、市に後押ししてもらえればと考えています。

白山市は地区ごとに課題や状況が大きく異なります。そのため、それぞれの地区が地区内で話し合い、将来像をしっかりと描いていくことが重要です。モデル事業に取り組んでいる地区は、そうした進め方をしています。

一方で課題もあります。地域コミュニティ組織化の際、地域で行っていた事業が組織の活動に引き継がれ、従来の公民館事業が追加される形になりました。その結果、負担が非常に大きくなり、やりたいことを十分に進められず、これまで通りに戻ってしまうジレンマがあると感じています。

◆ 市が考えている地域コミュニティ組織の目的や将来像を聞かせてください

(参加者)

この話に関連して伺いたいのは、地域コミュニティ組織の将来像や進むべき方向を、市がどう考えているのかという点です。千代野地区は策定したビジョンに沿って進めますが、地方自治を研究する有識者の中には、選挙で選ばれたわけではない組織のメンバーが、一定額以上の自治体予算を扱うのは望ましくないという意見もあると聞きます。

人口割、均等割、一括交付金などの考え方について、市の見解を伺いたいです。

(市長)

地域コミュニティ組織に対して交付する地域コミュニティ推進交付金は人口割など、いくつかの形でお出ししています。先日別の地区で、地域コミュニティ組織化によって予算が増え、道路の破損など地域の困りごとでも地域コミュニティ組織で対応していけると思っていた方もいました。ただ、予算を次々あてて「地域コミュニティ組織でやってください」としてしまっていると、地区の負担が大きくなります。

また、地域コミュニティ組織が市役所の出先機関のようになってしまう可能性もあります。住民票の手続きなどを、予算を増やして代行してもらう形は、負担も大きく難しいと考えています。

市民協働のまちづくりは、文字通り地域の皆さんが協働して進めてほしいという思いで進めています。ただ「協働で」と言っても簡単ではありません。今は結局、公民館でやってきたことと変わらないのでは、という指摘だと思います。地域を活性化し、外からも人が入ってくるようにするには、どんな行事や取組が必要か、考えてみてほしいです。

最近は大学生など関係人口を活用する地域もあり、学生が地域行事や新しい発想の取組を手伝う例もありますが、周知や共有が十分でない面もあるかもしれません。具体例として、山ろくでは大学生による関係人口の増加を軸に取り組みを進めていますし、地域の方が株式会社を作り、空き家を活用して宿を開くなど、地域づくりとして進めている例もあります。

(参加者)

具体例もよいのですが、地域コミュニティ組織の権限など、最終的にどのような形を目標としているのかが見えず、不安があります。地域として課題解決の目標はありますが、組織として最終的にどこまでの予算や権限を持ち、地域で配分し活動してほしいのか、指標のようなものを示していただけるとありがたいです。

(参加者)

私としては、細かいことよりもまず行動すべきだと思います。住民がやりたいこと、進めたいことを住民中心で進め、その上で市が意見や予算の相談に乗る体制が取れないかと考えます。予算や組織の考え方も大事ですが、それより住民が何を必要としているのかを、垣根なくどんどん出していくことが必要です。

市がお金をいくら出するか、交付金として地区で実施するか、良い取り組みとして市が直接事業をするかは、どちらでもよいと思います。住民が前向きに、安全安心や喜びを感じ、笑顔で暮らすためのアイデアを出し、市が様々な形で支えてほしいです。

(参加者)

その意見を踏まえると、今の懸念は参加者です。若い人や女性が十分に入っていない中で議論しても、住民全体の総意をまとめるのは難しいと思います。子ども会などの団体も入れて、設立準備段階から進めてきましたが、思うようには進んでいません。

また、千代野地区として何をしていきたいかが明確になった後に、予算の話がついてくるのだと思います。各団体が一年を通じて様々な事業をしており、本音で擦り合わせる時間や機会が不足しています。その結果、全体として何をすべきかが見えにくいことが、一番のネックではないかと思っています。

(参加者)

公民館の時代に市から地域コミュニティ組織の話が出た際、案として各団体への助成や交付金を一括でまとめるという話もありました。しかし、そこまで行くと地域コミュニティ組織は地区全体の「村長」のようになり、すべてを取りまとめる負担が非常に大きいと思います。そこまで担える住民は多くないのでは、という話になりました。責任も重い役割ですが、現状は半分ボランティアのような面もあり、そこまでの重荷を背負わせるのは難しいと思います。

(参加者)

結局、どういう組織にしていくかを決めるには、まず地区の課題を出し、解決のために何をしていくのがよいかを把握する必要があります。調べる中で市にお願いしないといけないことも出ますし、自分たちで工夫していくべきことも出てくると思います。

(参加者)

社会教育法の管轄だったものが地方自治法に移り、公民館時代に比べて仕事が増えたのは事実だと思います。だからこそ、事業の棚卸しをしながら、千代野に何が必要なのかを、各団体や住民の意見も踏まえて整理し、そのためのロードマップを作る必要があります。

千代野として今後 50 年、100 年先をどうしていくかが見えてくれば、それを市に伝え、実現のためにどんな形がよいか、金銭的支援や行政的な支援をお願いできると思います。言うほど簡単ではないのは分かりますが、まずは組織としてどうしたいかという答えを作るのが先だと考えています。

(参加者)

もちろんその通りですが、そもそも市がどういう経緯で地域コミュニティ組織を作っているのか、どんなビジョンを描いているのかは知りたいです。公民館時代と何が違うのか疑問に思う住民も多く、運営する側としても気になります。

(市長)

地域コミュニティ組織の取り組みは、コミュニティ自体が崩れていくことを懸念して始めています。千代野地区はしっかり取り組んでいると思いますが、町内会費を払わない、ゴミ出しでトラブルになる、といった話も増えています。学校でも PTA 会費を払わない、PTA に入らないなど、「コミュニティに関わらない」という人が出てきています。地域がコミュニティとして機能しないと、この先どうなるのか心配です。

市としては、先を見越して地域コミュニティを強化したいと考えています。ただ、予算をどんどん渡して市の仕事をどんどん担ってもらう形になると、負担が大きすぎます。公民館として担ってきた社会教育の部分や社会福祉の部分なども含め、住民主導で地域づくりを進めてほしいと思っています。その中で、交付金の出し方なども、意見をいただきながら進めたいです。

地区からの要望はそれぞれありますが、行政が「お任せしました」と手離しで放っておくわけではありません。要望に沿った対応ができるようにしたいと考えています。千代野地区の要望も伺っていますし、雨水対策のように、地区で困っていること、地区の力だけでは難しいことは、行政にどんどん知らせてほしいと思います。

- ◆ 千代野小学校の体育館について、避難所としてや敬老会での活用も考えて空調設備をお願いします
- ◆ 豪雨災害での冠水が心配です、道路改修や用水の管理での対応をお願いします
- ◆ 高齢化の対応による負担軽減のため、民生委員の増員を検討してください

(参加者)

千代野地区の現状ですが、少子高齢化が進んでいます。8月末時点の高齢化率は44.7%で、白山市内28地区のうち上から5番目です。各町内会を見ると16町会中14町会が4割超、2町会は5割超です。これを踏まえて4点、質問と相談があります。

1つ目は、千代野小学校体育館への空調整備です。能登半島地震でもありましたが、千代野は高台がなく、周囲をアンダーパスに囲まれ、降雨時に通行止めになる可能性があります。山側への南北移動も難しく、高齢化も進んでいるため、災害時のスムーズな避難は困難だと思います。避難を地区内で完結させるためにも、体育館の空調や、受け入れ時のトイレなどを整備し、避難所機能を高めてほしいです。

2つ目は、浸水対策です。今年8月7日の線状降水帯で、用水があふれ、道路冠水と床下浸水が2世帯で発生しました。上流の用水改修が昨年度に終わり、千代野へ流れ込む水量が増えた可能性があります。また、用水をまたぐ水道管や堰などの管理不足で水が流れ込み、冠水につながったことも考えられます。環状線工事の機会に、水道管のかさ上げなど、氾濫に備えた設計変更が可能な部分は検討してほしいです。冠水箇所は子どもの通学路でもあり、授業期間中に起きれば危険が増すため、対応をお願いします。

3つ目は、民生委員を1町会に1人配置できないかという点です。高齢化が進む中、民生委員の皆さんには見守りなどで地域を回っていただいています。170世帯でも構成によって負担は大きく変わります。業務負担の軽減のためにも、可能なら1町会1人の配置を検討してほしいです。

4つ目は敬老会についてです。千代野では75歳以上を対象に、市の負担もいただきながら敬老会を実施していますが、対象者が増えています。現在は午前・午後の2部制ですが、町内の一体感や顔見せの機会として、できれば1回にまとめて開催したいです。高齢者は約1100人で、参加は300人弱です。今のコミュニティセンターでは収容が難しいため、体育館に空調を整えれば会場として活用できます。災害時だけでなく平時にも使え、子どもたちとも一体的に使用できると思います。市の施設を有効活用する観点からも検討をお願いします。

(市長)

1点目、4点目の千代野小学校の改修についてですが、高台への避難という観点では、学校校舎の4階以上まで避難できるのが一番だと思います。子どもの個人情報の面もあり運用は難しいですが、能登半島地震では校舎も活用されました。教室にはエアコンが付いていますし、暑い時期はそこを使うしかない面もあります。

体育館のエアコン化は、市内施設のLED化との兼ね合いもあり、すぐにはできませんが準備は進めています。千代野小学校は以前は児童が1100人ほどいましたが、今は教室に余裕があります。放課後児童クラブなど学校外の利用も進めているので、その仕組みとあわせて検討するのがよいと思います。

敬老会については、私も過去に出城地区で蕪城小学校の体育館を使った経験があります。当時はエアコンなしで実施していましたが、近年は非常に暑いのでできれば設置したいです。また、地区によってはバスで松任文化会館を利用している例もあるので、当面はそうした選択肢も検討してほしいです。

3点目の民生委員については、人員確保が難しく、そろわない地区もある状況です。千代野地区の福祉協力員は30人ほどですね。福祉協力員の皆さんにはどの地域でも頑張ってもらっています。主任児童委員もいますが、年齢要件もあり人数が少ないです。働き盛りの世代の担い手が不足しているのが現状です。

民生委員については要望をその都度伺いますし、福祉協力員をどう活用するかも重要です。私が町内会長の時も、福祉協力員と民生委員に集まってもらい、対応を打ち合わせしていました。フルには動きにくいと思いますが、福祉協力員の皆さんにも協力をお願いしたいです。

2点目の浸水対策については、環状線の工事では水道管のかさ上げ及び堰の改修は実施ませんが、現在、雨水排水基本調査を行っており、雨水排水能力の不足が確認された路線について改修工事を行う予定です。

水門は川と用水があり、用水は農業用で市の管理ではないため、市は勝手に開閉できません。ただ、水門が閉まったままだと氾濫の恐れがあります。私の家も川の分岐点にあり、開閉の当番になっています。大本は生産組合が管理しています。工事の話は北安田あたりのことですか。

(参加者)

おそらく道の駅めぐみ白山の方から千代野へ通っている用水が一木地区で整備されたようです。そのうち北安田から海へ流れる一本で、千代野に入るあたりに水道管と、ゴミを下流に流さない機構があり、そこからあふれたと聞いています。自然が相手なので、いつ起きるか分からず、住民としては不安があります。

また、民間管理だと気象情報を見て個人判断が必要になり、難しいと思います。訓練がないと危ないのではと心配です。

(市長)

8月7日の大雨では各所で氾濫がありました。担当には、現状を整理し、すぐ直せるものと長期にかかるものを確認するよう指示しています。ただ、用水の水門を開閉するのは簡単ではありません。自動で開く転倒堰というものもあります。七ヶ用水は手取川側の状況を見て、リモートで取水量を調整できるようにし

ています。今回は線状降水帯が平野部で発生し、手取川側は雨が少ない一方、下流で水量が増えたことが要因と考えられます。徳光側の用水の広さなども影響した可能性があるので、確認します。

管理についてはこれまで生産組合が長年担っているので、今後もお願いしたいと思っています。ただ、今回話している用水は千代野地区内を通るので心配は理解しています。設備面では近隣のテニスコートなどを調整池として整備しており、溢れることも想定して作っています。実際当時は調整池も満杯でしたが、流量調整の役割はありますのでご理解いただきたいと思います。

上流側だけ整備され下流が整備されていないのは問題なので、担当と確認していきます。

◆ 松任地区交通安全協会連合会と白山市交通安全協会など、類似の団体の統合を働きかけることはできないのですか

(参加者)

交通安全協会について相談です。私は今、5～6年ほど支部長をしていますが、後継者を探そうとしても、担当業務が多く、すべて引き受けてもらえる方を見つけるのが難しい状況です。

白山市には交通安全協会が2つあり、白山警察署の松任地区交通安全協会連合会と、地域安全課の白山市交通安全協会です。4～5月は総会があり、両方の準備と出席が必要になります。本当はそろそろ交代したいのですが、この負担だと難しいです。効率化のために、行政が働きかけて2組織の統合などを進めることはできないでしょうか。

(市長)

白山市は合併から20年ですが、整備されずに残っている組織がいろいろあります。文化協会は何とか1つになりましたが、地区ごとの団体もあります。ほかにも商工会議所やJAも市にひとつではないですが、それぞれ事情や考えがあるため、市から指示して統合させるのは難しい面があります。

(参加者)

難しいと20年前から言いながら、まったく進んでいないのは問題だと思います。

特に助成金の扱いがいびつです。例えば松任地区の交通安全協会には上納金、つまり会費を住民割で払っています。一方で白山市交通安全協会からは助成金が一切ありません。ところが地域安全課の防犯協会は助成金を受けています。結果として交通安全協会は1戸あたり200円を住民からいただいて運営しているのに、防犯協会は数十円で済んでいます。

団体によって町会の持ち出しになるなど、会費の流れが違う点は、できるだけ整理してほしいです。

(市長)

市もどうしようもないと放っておくわけにはいかないと思っています。

おっしゃるとおり、白山市内には、白山警察署内に事務局を置く「松任地区交通安全協会連合会」と、白山警察署鶴来庁舎内に事務局を置く「鶴来地区交通安全協会」があり、いずれも一般財団法人 石川県交通安全協会の下部組織として活動しています。市は地域連携を重視し、別途「白山市交通安全協会」を設置していますが、事業が一部重複している点は否めません。統合は設置母体の違いや地域事情から難しい面があるものの、解決に向けて模索していきたいと考えています。

補助金は、市交通安全協会に運営・啓発費を助成しています。市防犯協会には、運営・啓発に加え、防犯活動の指導育成や青少年健全育成の費用を、協会および各支部に助成しています。状況の違いは目的や地域事情による面などがあるかと思いますが、不均衡の解消に向けて模索していきたいと考えています。

◆ 千代野処理場の今後の活用計画はありますか

(参加者)

西七丁目の角にある処理場について伺います。あの施設が具体的にどんな処理をしているのか、また解体はいつ頃で、その後をどう活用するのかといった展望について、市として考えはありますか。個人的には、高齢化も進んでいますので福祉施設を入れるとか、買い物が不便な方もいるので民間のコンビニを誘致するなどができたらいいと思っています。

(市長)

千代野処理場は、立地条件からは売却処分することも有効かとも思いますが、現状では、大雨の際に増量する汚水の一時貯留施設として活用しています。跡地についてさまざまな要望が出ていることは把握していますが、現時点では、まだ具体的な案とはなっていません。

白山市は、いわゆる遊休施設、使っていない施設が多いのが現状です。合併から 20 年が経ち、どう整理していくかは大きな課題です。国の交付金などを活用しながら、少しずつ進める方法を探っています。実際、人口規模に近い小松市と比べても、白山市はかかる費用が倍くらいとなっています。

ただ、使っていない施設も解体だけで 1 つごとに数億円単位の予算が必要で、すべてを一気には進められません。現在は担当部署を行政経営室から行政経営課に改め、人員も増やして、急いで対応しています。

一方で上下水道は会計が別で、独立した枠で運営しています。最近は埼玉の道路陥没が話題になりましたが、同様の問題は各地で起きています。硫化水素が発生すると、コンクリート管は薄くなって割れやすくなるため、こうした部分も整備していく必要があります。今回の地震でも液状化で被害が出た場所がいくつかあり、今は復旧を進めています。

全体として確約はできませんが、整備は進めていきますので、ご意見として受け止めます。

◆ 若い世代から見ても、コミュニティの崩壊の危機を感じています

(参加者)

先ほど市長からも「コミュニティの崩壊」という言葉が出ましたが、私も同じ問題を強く感じています。私は40代で子どもは高校生と中学生です。PTAを通じて20～40代の保護者世代と関わりができますが、PTAや町の活動、行事に無関心な方が本当に多いです。話を聞くと「行事や活動は、ない方がいい」という考えの方が多いのが現状です。

背景には、共働きで家庭の負担が大きいことや、子どものクラブ・部活動の付き添いで時間が取れないことがあります。働き方も多様化し、夜勤などもあり、活動につながりにくいという声もよく聞きます。

私はPTAやまちづくりに関わって、必要な活動だと感じているので、若い世代に関心を持って参加してほしいと思っていますが、現実には難しいです。

私は子どもの頃から千代野に住み、同世代の知人は多いのに、PTAや町の活動をしていると変わった人のように見られる空気があります。一部の方が頑張っていて、その人たちに負担が集中している状態です。

市長はミライ会議で各地区を回られています。20～40代の若い方が積極的に参加している地区や、若い世代を巻き込む工夫をしている例はありますか。将来を不安に感じています。アドバイスや所見を聞きたいです。

(参加者)

千代野地区での取り組みとして、今年から「千代野まちづくりネット」に「千代野小卒業生交流会」というグループが参画しました。北安田在住の方が代表で、ITにも強く、いろいろ助けてもらっています。

(市長)

地区によっては、このような組織の役員に、大変でも若い方や女性を必ず半数入れると決めて、その方針で運営しているところがあります。

(参加者)

PTAもそうですが、今は「強制はおかしい」という時代になっています。金沢市では加入強制をやめるよう市が学校に指示したと聞きますし、ネットでも「PTAや地域活動を強制するのはおかしい」という記事が多いです。保護者もそれを見ているので、「やらなくていい」「強制は変だ」という前提になっています。

そういう中で自主的に参加してもらおうとしても、地域活動やPTAの魅力を伝えるのが難しく感じます。千代野小学校も4月から加入を完全任意に変えました。白山市で初めてだと思いますが、こうした声が出る中で、抜ける方が増えた結果です。

若い世代、保護者世代の横のつながりも薄くなっています。同じ町内に住んでいても、同世代のお父さんを知らないことが結構あります。

(参加者)

今は若い人に限らず、人とあまり関わらなくても生活できてしまいます。地域と関わらなくても成り立つので、他人事になりやすい面があると思います。

(参加者)

旧松任地区には昔から壮年部や青年部がありますが、千代野地区にはそうした組織がありません。あるのとないのでは、地域の組織の形も変わってきます。出城の北安田などは若い方が多く、若い人のコミュニティがあるイメージです。

(市長)

壮年会も今はどこも参加者が少なく、解散した地区もあります。出城は、旧来の町内会に若い方も行事に入ってもらいながら進めています。この間の祭りでも獅子舞に若い人が多く参加していました。市政会という若い人の会もあり、一時期なくなりましたが復活して、まちづくりに関わってもらっています。

北安田南地区が新しく町内会としてできました。あそこは住民がお金を出し合って集会所も建てています。自分たちのコミュニティを1から作り、行事も組み立てているので参考になるかもしれません。

最近は行事も組織も成り立ちにくいところが増えています。本当は地域コミュニティ組織が中心になって担ってほしいですが、若い世代には難しい面もあると思います。それぞれ状況は違いますので、参考にできる地区もあると思います。

◆ コミュニティバスについて、オンデマンド運行などの計画はありますか

(参加者)

先ほど高齢化の話がありましたが、私が住む東三丁目では住民の約54%が高齢者です。高齢者の移動手段を確保する必要があると考えています。富山市でAIのデマンドバスシステムを導入するというニュースも聞きましたが、白山市として今後どのように考えていますか。

(市長)

デマンドバスについては話題になっていますが、良い点と課題の両方があるため検討しています。現在は、75歳以上の方がバスを無料で利用できる制度など、コミュニティバスを活用した施策を進めています。デマンド型も検討しましたが、運転手不足の問題もあり、すぐに解決できるものではないと考えています。

◆ 地区の状況にあわせた「千代野地区防災計画」を作成中です

◆ 災害時に備えて、井戸の整備とより多くの簡易トイレの備蓄をしてはいかがでしょうか

(参加者)

千代野地区の防災委員会では、現在「千代野地区防災計画」を作っています。今年の市民提案型まちづくり支援事業で採択いただき、ありがとうございます。12月ごろの発行予定です。地区の状況に合わせた考え方などを盛り込んでいます。完成したら白山市内の各コミュニティセンターにもお配りし、参考になればと思います。

(参加者)

防災について提案です。災害時は物資が3日ほどで集まっても、整理や分配する人手が足りないのが問題です。能登半島地震では体育館に物資が滞留して機能なくなりました。配布が遅れたものの一つが簡易トイレです。必需品なのに十分行き渡らなかったと聞いています。長期保存できる物なので、迅速に配れる仕組みを整えてほしいです。

もう一つは水です。能登地震では断水し、自衛隊が運んだ水を持ち帰るのに毎日数時間かかりました。千代野に井戸のある家は少ないと思いますが、非常時に備えて地区として井戸整備を検討してはどうでしょうか。この土地は手取川が通っていた時期もあり、井戸は可能だと思います。

(市長)

トイレは非常に重要なので備蓄庫を整備しました。今後は森本富樫断層地震の想定も踏まえ、多くの避難者が出る可能性を意識して備えを増やしたいと考えています。

井戸については調査しており、緊急時に提供に協力いただけるかも含めて検討しています。工業団地には井戸があるところはいくつかあり、古くからの地域では石川小学校付近などにも井戸があります。議員からも質問が出ています。井戸は重要な検討項目ですが、千代野で新たに掘る場合は確認事項が多いです。

(参加者)

災害時の物資では、初動で本当に必要なのはトイレだと思います。すぐに必要になって間に合わないものを先に備えることが大事です。

電気や水などライフラインの心配は常にあります。高齢者施設などにも備えがあるといいと思います。安全は一つの対策だけでは不十分で、複数の手段を用意することが必要です。

(市長)

本日はさまざまなお話を伺い、皆さんが地域づくりに強い思いを持ち、地域の安全も含めて熱心に取り組んでおられることを改めて感じました。大変心強く、うれしく思います。地域コミュニティ組織としてのご要望も多々あると思いますが、その都度しっかりお聞きし、対応していきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。